



# 広報 日造協

www.jalc.or.jp

第 406 号

2008 年 1 月 10 日

発行／社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊／昭和 49 年 6 月 1 日 〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-17-17 井門本郷ビル 2 階 TEL 03 (5684) 0011 FAX 03 (5684) 0012

## 新春特別号

「造園建設業は市民と仲間となる」

プロの知識・技術を生かした協働を



白神山地のブナ林【岳岱自然観察教育林】(だけだいしぜんかんさつきよういくりん)

白神山地は、秋田県と青森県にまたがる約 13 万 ha に及ぶ広大な山地帯の総称です。うち原生的なブナ林で占められている区域 16,971ha が平成 5 年 12 月に世界自然遺産に登録されました。白神山地の特徴は、人為の影響をほとんど受けていない源流域が集中し、分断されないまま原生的なブナ天然林が世界最大級でほぼ純林として分布していることにあります。また、このブナ天然林には、ブナ、サワグルミ、ミズナラ等の落葉広葉樹が分布し、白神山地全体が森林の博物館的環境を呈しています。白神山地の【岳岱自然観察教育林】は、世界自然遺産地域外であるが、コケむした岩塊とブナに覆われた約 12ha のブナ原生林の中には、1.8km の歩道が整備されており、世界自然遺産に登録された白神山地（コア部は立入り禁止）の重厚な趣を体験できる数少ない自然観察林です。（文は「藤里だより」参照）

（写真提供：東北森林管理局藤里森林センター）

2008 年

謹賀新年

（社）日本造園建設業協会

会長 佐藤 四郎

年頭にあたつて

新年明けましておめでとうございます。  
本年もこうしてみなさまと新年を迎えるられ  
たことを大変うれしく思います。

本年の干支は子（鼠）であります。

ことわざの「窮鼠猫を噛む」、「袋の鼠」等、  
また衛生害獣の代表とされるなど、どちらか  
と言うとマイナスイメージが強い動物です  
が、一部地域では大黒天の神使とされ、五穀  
豊穣に不可欠な生き物とされたり、ウォルト  
ディズニーが飼っていたネズミをモデルと  
し、1928年に初めて登場したミッキーマウ  
スなどの愛くるしい姿と動きから、物語  
やアニメのキャラクターとして取り上げられ  
る人間生活に馴染み深い生き物であります。

さて、昨年 1 月のテレビ情報番組の不祥事  
や不二家の偽装から始まり、ガス湯沸かし器  
の事故、遊園地コースター事故、渋谷スパの  
事故、朝青龍事件、阿部首相辞任、NOVA  
問題やミートホーリー事件、赤福偽装事件、11  
月には老舗偽装や守屋前次官事件などほぼ毎  
月のように企業や政治、また個人においての  
不祥事や偽装があり、ニュース番組でどれほ  
どの人が頭を下げていい姿を目にしたことか  
どうか。

まさに「昨年の漢字」第 1 位の「偽」を象  
徴した年であり、昨年の「命」や 2 年前の  
「愛」と比較して明るいニュースが少なかつ  
た年であったように感じます。

一方、我々産業界に関連する環境問題は  
ニュースや新聞紙面上で目にしない日は無い  
ほど頻繁であり、日本国内のみならず世界の  
大きなニュースであり、昨年の世界の文字

というものがあれば、間違いなく「環境」が  
第 1 位であったと思います。

実際にノーベル平和賞も環境問題を訴えた  
アル・ゴア氏の「不都合な真実」が評価さ  
れ、これまで実績にのみしか授与されなかつ  
たこの賞が、これから行われる取り組みに寄  
与することで受賞したのは、環境問題が世界  
の常識であると言つことの証明であると思いま  
す。

2004 年に樹木を植え続けたことにより  
ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータ  
イさんと共に我々造園業界にとつてはフォ  
ローウィンドのニュースであります。

私も当協会の会長 2 年目にして、

「VISION 21」に沿った施策を進めるため、

一昨年に続き会員の皆様の協力を得「全国造  
園フェスティバル」を行い、後で記事になっ  
ている新春座談会のテーマである「造園建設  
業は市民と仲間となる」という造園業界の広  
がりを推し進める一方、皆様には何かとご不  
便をおかけしますが、本部事務所の移転など  
経費の抜本的な見直しを進めており、本年も  
より一層の努力を行っていく所存であります。

昨年も私の好きな言葉として話をさせて頂  
いた「ストロングウイル」。強いやる気  
を活動指針のコアとし、会員の皆様と共に良  
い一年を送りたいと考えております。

「鼠年」は十二支が一巡し、一番最初の干  
支であります。

会員一同健康には十二分注意を払い、初心  
に立ち返り素晴らしい一年を過ごしましょ  
う。





# 「造園建設業は市民と仲間となる」

# プロの知識・技術を生かした協働を



## 「全国造園フェスティバル2007」のひとこま

生活との接点を見つけるのは難しく、「いいお仕事をされてますね」で終わつてしまいそうです。パンフレットが、私たちは素晴らしい仕事をしています、という切り口で製作されていくからだと思います。

視点を変えて、もしあなたが地球温暖化防止に役立つ庭をつくるなら…とか、身近な生き物たちの保全に

ただ、木屋さんはそこまで考えて  
いるのか、と市民の方々に造  
園屋の仕事の領域や専門性  
を強くアピールできるので  
はないかと思います。

そういう意味では、日造  
協が始められた「全国造園  
フェスティバル」は、造園

また、家を建てるチャンスがあつたときに、植木屋さん、造園業の方々にお願いすることはあるけれども、作つていただいた後定期的に手入れをお願いするという方は少なく、木が大きくなつたら、何となくこんなものだろうと、自分でハサミを入れている人が増えていきのではないでしょうか。

くは大勢の人が集まる所です。何となく切っている古民、素人が多いだけに、開心が高いのではないでしょか。

逆に、造園屋さんのつくった花壇に物足りなさ、硬さを感じたりします。造園屋さんにもいろいろあり、登注者の仕様になつてゐるのかもしれません、公園の場合、本当の登注者である

ですから、頂いた「全国造園フェスティバル」のパンフレットに「花と緑で美しい日本を」と書かれていたのを見て、上手い表現ではないかも知れませんが、男の子がスカートをはいたような感じを受けました。というのは、造園業の方々は、官民を問わずさま

いく上で当然必要となつてくるのですから、このソフトなヤツチフレーズとこれまでのハードな造園建設業のイメージのギャップを埋めていくことが、今後の課題だろうと思います。

また、皆さんが製作された「ビジョン21」や協会のパンフレット「造園の仕

ら見れば、とても分かりやすくて、すぐまとめられているのですが、市民の方々がみた場合、内容が少し専門的すぎで、私たちが取り組んでいた「造園」の世界を伝えるにはもう少し工夫が必要だろうと感じました。

例えば、パンフレットに示されているキーワードの「地球温暖化」や「生物の多様性」の紹介も、そういう仕事をされている会員企業がいることは理解できました。しかし、市民の方々はそのことと自分たちの日常生活

を美しくするためにあなたができること…などの切り口で作られれば、市民一人一人の生活との接点がもつと理解されやすくなるのであります。花と緑をもつと身近に感じてもらえば、そういう環境に優しい庭を造ろう、保全に協力しようといった時に、造園屋さんが頼りになるのではないかでしょうか。

例えばヒートアイランド対策のための庭づくりについて、その考え方、樹木の選び方、管理の仕方、そ

いかがですか。  
中道 日頃から花と緑に接し、この席の中で一番、市民の方々に近い存在と思つていていますが、普段接している人に造園と聞いたら「植木屋さんね」と応えると困ります。

都心のマンション暮らしなど、ご自身で家を建てるチャンスがない場合は、造園、植木屋さんと直接かかる機会はまったくないと言つてもいいでしょう。私もそうですが、都心のそうした庭を持たない人の方が

ます。しかし、なかなか一般市民の方、庭を持つ人が少ない都市の人々に、造園のお仕事を理解してもらうのは難しいことだと思います。

ただ、お庭をお持ちの方に関して言えば、一番の関心ことは、樹木の剪定です。いろいろなイベントで相談コーナーを担当し、剪定など樹木の質問の際は、メンバーの造園家の方に対応をお願いし、枝だけを用意して、こういう風に切る……などの説明をはじめると、す

会社もあるんだということを人々に知つていただく、そんないい機会になつていゐるのではないかと思つています。

**祐乗坊** 私も造園家ですの

で、市民の立場ということにはなりませんが、造園と

いう用語はともかく、造園

建設業となると、「土建屋

さん」といわれる土木建設

業のイメージが強いのでは

ないかと思つます。

さまで仕事をやられているわけですが、特に公園整備など、社会基盤をつくる公共事業といったハードなものづくりを行っている印象が強く、「花と緑」といつたソフトなイメージを前面に出されたのをみて、ちょっと戸惑いを感じた訳です。

しかし、「花と緑」は、もちろん造園の領域です。

任せているというところは、地域それぞれの特色が發揮でき、とてもユニークだと思います。

せつかく「花と緑」という市民に受け入れやすいテーマを掲げたのですから、市民に印象付けられるPR、インフォメーションのあり方を考える必要があると思います。

私たちの花を扱う仲間で、树木と花のバランスをとっても大事にして、花壇などをつくつたりしていますが、なかなか樹木のことになると詳しいことはわからず、一番悩むのが樹木の剪定です。ですから、わからないことがあると、造園の方々にどうしたらしいの?と尋ねることも多く、造園技術

関係が生じる場合もありま  
すが、そこに私たちや市民  
の方々が入って協働できま  
と、私たちも勉強になりま  
すし、市民感覚も取り入れ  
た愛着を持つてもらえる妻  
敵な花壇づくりにも役立  
のではないでしょうか。こ  
うした協働が広がっていく  
と素晴らしいと思っていま

# 市民の「造園」に対するイメージ



下平尾 文子 氏



## 座談会のまとめ







日造協 新春座談会「造園建設業は市民と仲間となる」

# 人々が求める「みどり」と「造園」

ていながら、育て方が分からぬかたりして門前に立ち止まっている人も大勢いるのではないかと思います。そのような門前の小僧的な人たちに、手を差し伸べて一步踏み込ませてあげる、ご用聞きのようによると、花とみどりの普及に大切だし、ビジネスのマーケットにもなると思います。

しかし、そうした個人相手、B&Cを造園屋はこれまであまりやつてこなかつたから、手を出せずにいたのではないでしようか。

**五十嵐** 先ほど中道さんは、自然に触れる機会がなくなつた子どもたちのお話をされました。感性を育てる場として、公園やベランダの縁などで展開できるいいアイデアはありますか。

**中道** ガーデニングブームはかれこれ十年前になると思いますが、あの時は、皆さんきれいなお花を求めていたと思います。

しかし、イギリスと日本では気候も違いますし、想像以上に手間が掛かつたり、自分が思い描いたものを実現するための、知識や技術が追いつかなかつたりしました。それが、やつと日本にあつたもの、自分にできること、手間を掛けられる範囲が分かつてきましたが、最近のことだと思います。

咲いた状態にした時期になりましたが、それは大す。ですから、そうしてめざすと言うのでもいいと思うようにしました。

いわゆるコンクリー  
開まれ、無機質なもの  
の中で暮らすのと、公  
園が見えて、季節の移  
わりが分かたり、ベ  
ダや室内のちょっとし  
があるだけでも、まつ  
違います。新しい芽が  
きたということだけで  
新鮮だつたりします。

ベランダでもちよつ  
た低木を植えること  
能であり、その足元に  
こつとお花が咲いて  
り、そういうものでも  
と思います。ものすご  
を掛けなければ育てら  
いというのでは、一  
方々には広がりません

また、造園の方々が  
られるものは、少し硬  
めージがあり、気軽に  
緑を楽しみたいと言つ  
馴染まない部分もある  
は、普口してもらいた  
けれど、自分ができる  
は、自分でやりたいと  
人がほとんどですのと  
しい庭でもつくり込む  
はなく、庭を使われる  
手を加えられる余地が  
られ、逆に欲しいのは  
識の及ばない樹木の管  
ベースとなる土のこと  
たりで、そうしたこと

私たちにはなにが変わったのでしょうか。たとえば、専門家の方々にめぐり合はれはと思っていましたが、実際に相談できることで、花のスペースを作ることで、樹木などになると、プロとしてお答えすることはできず、石などに園の方々の協力や連携ができないと思っていました。そうしたところでは、園の出でても、ぜひと一緒にあります。そこで、今日は、園の美しさを目指す活動ができればと思っています。

園に貢献たことをうつしやるので、そこには本当に苦慮して、なかなかすべてに正解はなく、一つは、我慢していたたかれて、落ち葉などに協力して欲しいと呼びました。専門家の方が入られるのですか。下平尾 行政の説明でいただけない方の場所も、こうこともあります。私たちも専門家ながら、なかなか行政も与えていないようなので、林地などで、樹木を健生長させるために間伐を必要なときには、樹木にても必要なことだと、的な説明をしていたたかれて、実施することもとした。関根 整備されてから30年経つ公園になってきており、ここ公園では、低木から高木まで、すべてがなになってしまっている状況掛けます。鬱蒼とした公園のは、見通しのために必要なことが必要だと申す。ヨーロッパなど見通しの確保が徹底しており、公園の向こう側を見て、死角がないとなっています。安全・安心が求められます。時代でもあり、樹木はもので、大事にすることもろんですが、害を切



閔根武氏

日造協 新春座談会 「造園建設業は市民と仲間となる」 プロの知識・技術を生かした協働を

# 花と緑のライフスタイル産業めざす

きましたが、この周囲には新しいマンションがたくさん建つておる、ここに住んでる人などは、自分の庭のよう利用され、いつもベビーカーでお子さんと一緒に来られるお母さんや子どもたちで賑わっています。

芝生の広い空間があることで、高い建物がたくさんある中でのクールスポットになつており、ヒートアイランド現象の緩和にも役立つてゐることが、体感できます。こうつたものも市民の方々にわかりやすく伝えることができると、同じような場所をもつと増やして欲しいということにながつていくのではないかと思つています。

また、これもCSRとは異なりますが、07年5月に

造園建設業として日本から初めて、世界でもつとも有名な花のイベントであるチエルシーフラワーショウの方で開催されました。渡航や現地での施工会社の手配など、相当な費用も掛かりますが、国際化への対応、また、日本の造園技術やセンスが世界的なものであることをアピールできるのではないことを評価され、実際に多く存在しますが、逆に日本では、歴史的な日本庭園以外に閑

みました。

日本庭園は国外では高く評価され、実際に多く存在

しますが、逆に日本では、

花と緑のライフスタイル産業めざす

きました。一方で、屋上緑化などの効果効用などは、いろいろな科学的データが出ていま

す。

それが、専門家の方々が容易に理解で

きても、まだまだ市民の

方々には、分かりやすく伝

わつてないと思います。

取り組みも大事だと思いま

す。

効果効用の正しい情報を分

かりやすく市民に周知する

方がいいと思います。

花と緑のライフスタイル産業めざす

す。

こうしたデータは、専

門家の方々が容易に理解で

きても、まだまだ市民の

方々には、分かりやすく伝

わつてないと思います。

取り組みも大事だと思いま

す。

花と緑のライフスタイル産業めざす

す。

それが、専門家の方々が容易に理解で

きても、まだまだ市民の

方々には、分かりやすく伝

わつてないと思います。

花と緑のライフスタイル産業めざす

す。

それが、専門家の方々が容易に理解で